

目標 100Km マラソン完走・・・明日なき自分との戦い！

本庁支部 橋本 浩一

自分が本格的にマラソンを始めて、8年目になる。それまでは、ダイエットのために昼休み2km程度走っているだけだった。

そんな自分がある日、同じ事務所の先輩に初めてフルマラソンに誘われ、初マラソンながらも見事に完走！！

それ以来、その感動と緊張感を味わいたくて、どんどんマラソンにのめり込んでいった。

今では、下関マラソン、青島太平洋マラソン、指宿菜の花マラソンと、年々参加する大会が増え、走力にも自身がつき、フルマラソン完走は当たり前になった。

そんな自分でも、2度参加し、2度ともバスに収容され、いまだに完走を味わったことのないレースがある。

それこそが、毎年6月上旬に開催される阿蘇カルデラスーパーマラソンである。

今回、このマラソンで体験したことを書こうと思う。

このマラソン、何が凄いかと言うと、コース図を添付しているが、南阿蘇から高森、産山を経由して内牧へゴールする、走行距離100km、高低差500m。

それを13時間30分（全く休憩なしで8分/km）でゴールしないとイケない、過酷なレースなのである。

普通の人にとったらアホかと思うだろうが、もうすでにマラソン中毒にかかっている自分にとっては、限界以上の体力と気力が必要となるこの大会が快感でたまらない！！

自分以外にも、この大会に魅せられ中毒になっている3人の男がいる。毎年、自分とこの男達を含め4人で参加している。あまり意味はないがその男達をここで紹介しておこう。

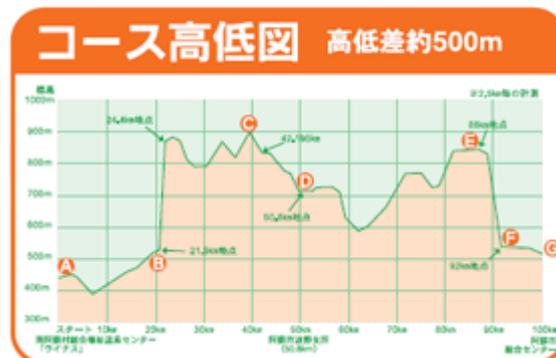
上司がせくしーで毎日興奮している H 次〇一、先輩の血圧が気になってたまらない N 村〇高、S 本課長・G 間係長にマラソンで休みたいとはっきり言えない山下祐司である。

3年前、H 次先輩に誘われ始めて参加することを決意！この頃はかなり走り込んでいて、体重も今よりも5kg 痩せていたので、100km と途方もない距離だったが、以外に完走するのではと、自信と余裕があった。

大会前日に会場に到着し、受付を済ませコースを下見。車で下見するも100km は長く、時間がかかり過ぎて途中で爆睡！！（緊張感まったくなし。）

前夜祭を4人で行うも、祭り気分で興奮し結局深酒！！

案の定、翌日スタート地点到着後、すぐにソソウをしてしまった。



コース図及び高低差

明朝5時、酔いも覚めぬままテンション高めでついにスタート。しかし、酔った勢いで気分よく走れたのも10kmまでで、あと90kmあると考えた瞬間酔いが覚め、と同時に完走できるかと不安になり今度は腹痛！最悪の出足となってしまった。

H次、N村、Y下はすでに遙か彼方、「やばい、やばい、俺だけ完走できない」とブツブツ言いながら一步一步足を進めていった。

この大会、距離が長いだけあって、ランナーに目標を持たせるために、各地点にソーメン・そば・スイカ・うどんと名物を配置している。(逆に言えば、たどり着かないと食べられない。)

特に、75km過ぎのうどんは最高に旨いとランナー達の間で話題になっていたのも、うどんを食べれば、打ち上げの話題に事欠くことはないと思い、うどんを食べることを目標に再度気合を入れなおした。

42kmもクリアし、中間地点である50kmにも無事到着。そこで名物のそばを食べ打ち上げに必要な話題箇所をつぎつぎに走破していった。

しかし、60km過ぎで大事件が起きた。なんと、N村が「だめでしたー！」と自分の横を車で通過。早々とリタイアしたのである！

最大のライバルN村(H次、Y下はすご過ぎて目標にならない)を失ったことで、大きくショックを受けた。が、と同時に「リタイアしても1人じゃない」と言う邪心がよぎった。その瞬間、胸が苦しくなり、足がつるなど、体に異変が起きたのである。

人は、心が一度折れると復活は難しいもので、それからは、ズルズルと下降の一途をたどっていった。

それでも、駄目になった身体にムチを入れて走り続けた結果、なんとか75kmのうどんに辿り着いたのである。完走したわけでもないのにあまりの嬉しさにカケコミ3杯！！そこで力を得た自分は、さらに前へ進むことを決意した。

しかし、しばらく走って84km手前にさしかかった時、またも異変が起きた。気がつくとも他のランナーの姿が見えないのである。「あれっどうなった！」。

と、後方に目をやるとはるか向こうにバスらしきものが。それこそがまさしく自分を収容するためにやってくるバスだった。

「もう、終わりですーす」その言葉だけが阿蘇の大自然に鳴り響いた。

この時、もうすでに前へ進む体力と気力を無くしていた自分は、思わず「ありがとう」と答えてしまった。

バスに乗り込むと「お疲れさん！」。すでに収容されていたランナー達に拍手で迎えられた。走行距離84km、自分なりに満足な結果で少し感動！他のランナー達もおのおの達成感に満ち溢れていた。その瞬間、「俺たちは頑張ったんだー！」とみんなで叫び、何故か拍手！？収容車とは思えない盛り上がりを見せた。

しかし、バスがゴール地点に近づくにつれ、車内から言葉や笑顔が消えていった。それもそのはず、窓外に歯を食い縛ってゴールをめざすランナーの姿が見えてきたからである。バスが到着した時には、車内は「どよ〜ん」誰一人言葉を発することなく下車。(さっきまでの盛り上がりはどこ行った！?)

降りたそこには、もうすでにゴールした人や、今まさにゴールテープを切る人で、会場は感動と声援で満ち溢れており、まさに勝者だけの空間！！自分が限界以上の84km走ったとしてもゴールしなければただの敗者。100km走破した者だけが歓迎される異様な空間だったのである。その時初めて、この大会のすごさと恐ろしさを体験した。

結局この年は、H次、Y下が時間ギリギリでみごと完走、自分とN村の2人が、この大会の空気に押しつぶされ、負け犬さながら会場を後にしたのである。

昨年、どうしても勝者の称号が欲しくて、2度目の挑戦を決意した。前回に比べて、体重5kg増、練習量も半減と言う自分でつくったリスクを背負っていたが、84kmまでいった男なので、リスクを考慮してもそれ以上はいけるだろうと、甘い気持ちで参加した。(何の根拠もない、ただそう思っただけ。)

今回は、自分の甘さに天も気分を害したようで、スタートと同時に雨がポツン・・・！「これくらい大丈夫！」となめてかかったら、さらに激怒し、ついにはどしゃぶり・・・！10km地点に付く頃には全身ずぶ濡れ。天候が回復する兆しすら見られない。そのうち急激に体が冷えて体調が急変！25km過ぎたころから体が悲鳴をあげ始めたのである。「ここで止めたら参加費1万4千円がもったいないし、いい笑いものだ。」体を蛇行させながら歯を食いしばり走り続けた。しかし、世の中冷たいのもで、中間点到着まであと一歩のところまで、係員に止められた。「ん！何！？」「あなたから途中棄権者です！！」まさか自分で止められるとは、まともやバスに収容される。頭が真っ白になった。どんよりした気分でも今年もバスに乗車。天候が悪かったのもあり、前回よりも車内は大盛況！！まとも拍手や握手の嵐。「またこれかよー！」どうせゴールに近づくと車内の空気が変わるので、今のうちと思いき今回は、負け惜しみを連発して車内を盛り上げた。

ゴールに到着すると、まともや無言の解散！

しかし、前回よりさらに苦しめられたのは、早々とリタイアしたため、3人がゴールする予定時刻まで6時間近くあったのである。しばらくして、ゴールするランナーが増え始め、会場はまた、あの異様な空気に変わっていった。そのなかで1人ポツン・・・その空気に押しつぶされながら、ひたすら3人の帰りを待つはめになってしまったのである。待ち時間の長さに嫌気がさし、「N村早くリタイアして帰って来て！」と人の不幸を期待する男に成り下がっていった。

しかし、期待に反して、H次、Y下が例年どおりエクスタシーな顔でゴールテープを切った。後は、N村だけ・・・まさか。そのまさかの場面がやってきた。時間内ギリギリでN村がゴールテープを切ってしまったのである。N村のゴールを見て、感動したが、と同時に、俺は何なんやねんと落胆してしまい、泣きそうになった。

その悔しさに追い討ちをかけるかのように、3人がレース内容を振り返りながら楽しく喋りだした。N村はかなり嬉しかったのか、日頃あまり喋らないのに、異様なハイテンションで積極的に話していた。4人で来たのに、自分一人空気のような存在だった。この場から立ち去りたかったが、自分の甘さが招いた事と辛抱し、ひきつった笑顔で、3人の会話に耳を傾け、夜の打ち上げもこのテンションがつづくのかと思うと、自分のかわい精神が折れそうになった。が、来年こそはと気持ちを振るいたたせ会場を後にした。

今年も、ガルデラマラソンの時期がやって来ようとしている。参加するかまだ悩んでいるが、一度手をつけた大会！制覇せずにやめる軟弱な男にはなりたくないし、それにまだ自分だけゴールテープを切っていないので、いずれN村、Y下に馬鹿にされ、呼び捨てにされるだろう。

今年こそゴールし、あの会場の雰囲気を楽しめる勝者になるため、大会までの時間、懸命に練習しようと思う。(もう負け惜しみのバスには乗りたくない！)

これからまた自分との戦いが始まろうとしている！・・・勝利のために。

※(財)福岡県建設技術情報センター 土木技術課